

## 審議会等の会議の記録

会議の名称	第1回伊勢崎市下水道事業経営戦略等検討委員会
開催日時	令和4年5月13日(金) 15時30分～17時00分
開催場所	伊勢崎市役所 東館3階 災害対策室
出席者氏名	[委員] 熊倉会長、平川副会長、笠原委員、加藤委員、松村委員、 田中委員、清水委員、吉田委員、細野委員 [事務局] 尾島上下水道局長、井野副局長兼総務課長、 西目下水道施設課長、五十嵐下水道整備課長、 糸井下水道整備課計画係長、土屋総務係長、関野経理係長、 三上経理係長、菊池料金係長、石川主査、遠山主査 [受注者] 横浜ウォーター株式会社
傍聴人数	0名
会議の議題	・現行の伊勢崎市公共下水道事業経営戦略、伊勢崎市農業集落排水事業経営戦略及び伊勢崎市特定地域生活排水処理事業経営戦略について
会議資料の内容	・次第 ・伊勢崎市下水道事業経営戦略等検討委員会 委員名簿 ・席次表 ・資料1「伊勢崎市下水道事業経営戦略等検討委員会設置要綱」 ・資料2「伊勢崎市下水道全体計画一般図(汚水)」 「汚水処理区域図」 「令和2年度末 汚水処理人口普及状況(汚水処理人口普及率順)」 「伊勢崎市公共下水道事業経営戦略【概要版】」 「伊勢崎市農業集落排水事業経営戦略【概要版】」 「伊勢崎市特定地域生活排水処理事業経営戦略【概要版】」

会議における  
議事の経過  
及び発言の要旨

【委嘱状交付式】

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 挨拶
- 4 閉会

【第1回検討委員会】

- 1 開会
- 2 委員・事務局自己紹介
- 3 委員長及び副委員長の選任  
委員長に熊倉委員、副委員長に平川委員が選任された。
- 4 議 題
  - ・ 現行の伊勢崎市公共下水道事業経営戦略、伊勢崎市農業集落排水事業経営戦略及び伊勢崎市特定地域生活排水処理事業経営戦略について  
事務局から資料2「伊勢崎市下水道全体計画一般図（汚水）」「汚水処理区域図」「令和2年度末 汚水処理人口普及状況（汚水処理人口普及率順）」「伊勢崎市公共下水道事業経営戦略【概要版】」「伊勢崎市農業集落排水事業経営戦略【概要版】」「伊勢崎市特定地域生活排水処理事業経営戦略【概要版】」に基づき説明があった。  
【質問・意見】  
委員長：質問及び意見はあるか。  
委員：伊勢崎市が汚水処理人口普及状況で26番目だが、この原因はどういうものなのか。例えば費用の問題なのか、地域性の問題なのか。  
事務局：昭和50年代ごろ、伊勢崎市は中核都市として今の市街化区域の半分で、区画整理事業をやっており、昭和46年から下水道事業が始まった。人口の増加等と下水道の普及が少し乖離してきたと思われる。  
委員長：工業集積と人口集積が急速に進んだためと理解して良いか。また、旧伊勢崎地区は下水道事業が順調に進んだが、市町村合併により旧市町村は公共下水道はなかなか普及しなかったということか。  
委員：下水道が当たり前の生活のため驚いた。  
委員：今後、料金は上がるのか。また、近隣市町村との比較を知りたい。  
事務局：2か月で40m<sup>3</sup>の水量を排出した家庭料金の場合、伊勢崎市は4,202円で、県内12市で3番目に安い。  
委員長：渋川市が一番安く4,026円、館林市が一番高く5,940円である。汚水処理を上げるには市民が負担できる料金を検討する必要がある。  
委員：今後の計画について説明してほしい。  
事務局：5か年計画で事業計画を立て、現在、資料2「伊勢崎

市下水道全体計画一般図（污水）」の白い箇所を整備中である。

委員：管路整備を実施するにあたり、住宅が密集する西部地区まで時間がかかると、その間、新たな住宅は接続できないのでスピード感をもって対策が必要なのではないか。

委員：68.1%は污水处理となっているがそれ以外はどうしているのか。

事務局：污水处理については公共下水道、農業集落排水、合併浄化槽となり、それ以外は単独浄化槽、汲み取りとなる。

副委員長：今後、使用料を改定する予定はあるか。

事務局：今回の議論の中で下水道使用料についても含めて議論を進めたい。

委員長：下水道使用料についても経営戦略を踏まえながら逐一に見直しをすべきで、設備更新や耐震化など費用がかかるところだが、厳しい状況だが普及率向上を目指したい。次回までに笠原委員に全国で使用料を上げながら、普及率も上がり、かつ老朽化等に対する対応もうまくやっている例を調べて教えて欲しい。

委員：老朽化対策、延命化について優先順位を教えて欲しい。

事務局：2か所ある処理場の1つ平塚浄化センターについては平成20年から供用開始のため新耐震であり問題なし。もう1つの伊勢崎浄化センターについては45年が経過しているため、順次耐震化を図っている。

委員長：単独浄化槽から合併浄化槽にすることは当然だが、合併浄化槽から公共下水道に変えることで、より望ましい結果が出るのか、市民負担と釣り合うのかなど、検討委員会で議論を深めたい。